

土居昌弘の大分県議会議員活動報告

令和2年
第24号

羽ばたき 民主主義の挑戦!! 輝き合う社会を求めて

土居昌弘公式ホームページ
http://doi-masahiro.net/

編集：大分県議会自由民主党 発行：大分県議会自由民主党 土居昌弘連絡事務所 〒878-0005 竹田市挾田670番地 TEL 0974-62-4848 FAX 0974-63-0124

うつむくと、虹は見えない

新型コロナウイルス感染症と豪雨災害の先へ

○災害年度

昨年12月、中国武漢市で確認された新型コロナウイルス感染症。この感染症は中国の春節連休も重なって、瞬く間に世界を席巻。8月4日現在で、世界では1840万人以上が感染、うち69万人以上が死亡。もちろん、日本でも4万人以上が感染し、うち千人が死亡。県内でも73人が感染し、1人死亡。そして、残念なことですが、収束する兆しが見えません。

この新型コロナウイルス感染症の脅威は、単に人に危害を加えるだけでなく、緊急事態宣言が象徴するように、感染拡大を防ぐために人の動きを止めてしまうところにもあります。その結果、どうなるのか。経済活動をはじめ、

○迅速な対応

大分県では、これらの問題に、迅速的確に対応しようとしています。3月末に議会が決めた令和2年度の当初予算。それ以降、県議会自由民主党では広瀬知事にコロナ対策の要望書を4月

教育・文化活動、医療・福祉活動等の停滞を招きます。さらには、感染症患者が発生した地域社会は、感染者や家族等の関係者を誹謗中傷する状態になってしまいます。そのようななか、7月豪雨による甚大な被害。竹田市も道路や河川、農業基盤等に被害が多数あり、多くの市民がコロナと水害のダブルパンチを浴びることに。

○公共的資本主義

しかしながら、補正予算で実施される事業は、言わば応急処置的な事業が多い。中山間地域が広がる大分県。豊かな自然は、災害多発であるということ。また、新型コロナウイルス感染症のような未知の感染症の恐怖。大分県は今回の経験を活かして、新しい時代にふさわしい政策を打っていかなければ

23日に、また、豪雨災害対策の要望書を7月22日に提出し、県民の声を届けました。知事は直ぐさま対応し、当初予算から8月までに、4度にわたって補正予算を編成。コロナと水害に対し、早期の復旧・復興を掲げて、様々な施策を実施しているところです。

ばならないでしょう。様々な批判を受けている国の国土強靱化計画ですが、この方向は間違っていないと考えています。強靱化上乘せ予算で実施した事業のおかげで、大分県の今回の被害は軽減できました。これからも県土の強靱化を進めるべきです。

また、コロナの反省を踏まえ、効率至上主義のグローバルな競争的資本主義の考え方から、医療、福祉、介護、教育、地域、防災、人の繋がりのなどの「公共的な社会基盤」を高めていこうとする考えに変えていかなければなりません。そのためには、常に効率を尺度にするよりも、「他のため」により比重を置く必要があります。安定重視の公共的資本主義への転換です。

子供や孫達のことには思いを馳せ、自然を克服するのではなく、自然のためにどうしていくべきかを考えることが重要なのです。

○明るい方へ

7月23日午後8時の国立競技場。2度目の「東京五輪開幕まで1年」を迎え、白血病からの復帰を目指す池江璃花子選手(20)は、聖火のともったランタンを掲げ、「希望が遠くに輝いているからこそ、どんなにつらくても前を向いて頑張れる」と、自分に言い聞かせるように語りました。いかなる逆境、悲運にあっても、希望だけは失ってはなりません。歴史を振り返ってみても、闇の中から光を見出す力を私達は持っています。

私には、光がみえます。次世代のために、私達にできること。このことを深く考えながら、政策をつくっていくなければなりません。



県議会自由民主党として、広瀬知事にコロナ対策の緊急要望。政調会長である土居県議が、知事に県民の願いを届けました。(4月23日)



再び、知事への緊急要望。今度は、災害復旧。県議会自由民主党の議員が、それぞれの地域で集めた要望を整理。補正予算編成を促しました。(7月22日)



平成24年の7月豪雨で崩壊したところが、今回も崩壊。久住連山では治山事業を実施していましたが、完成する前にこの状態に。(7月8日)



直入では、土砂崩れにより家屋が全壊。2名が家の下敷きに。竹田市消防署と三菱メディカルセンター DMAT等の救命救助活動で2名とも無事です。(7月8日)



山からの土石流を受け、跡形もなく土砂に埋もれてしまった郡野の井路。久住連山の崩壊は、谷間のせせらぎの姿を一変させました。(7月11日)



白丹も各地で山や川が崩れ、田畑、水路、農業用施設などに被害が発生。記録的豪雨が常態化するなかで、暮らしを守っていく施策が必要です。(7月23日)



赤川登山口そばにある赤川荘。露天風呂から眺める「雄飛の滝」は風情豊か。しかし、豪雨で濁流に。風呂は崩壊しました。(7月15日)



竹田市と大分県で国に対応を求めています。(7月31日)



大船山、黒岳の麓の岳麓寺。今年は牧野の野焼きに参加して、草原を守っていくのが、どれだけ大変かを学びました。(2月24日)



しかし、その牧野も崩れ、登山ルートも閉鎖しています。(7月15日)



農場で楽しそうに実習をする生徒達。



7月30日の中高連携による県立高校進路ガイダンス。市内中学校の先生に学校説明をする久住高原農業高校校長。魅力を伝えます。

輝け！久住高原農業高校

平成23年第2回定例会 一般質問

土居議員質問
久住校定員120名だが、2年連続して80名未満になると生徒募集停止に。農業技術者養成の専門高校として、生徒を全国募集してみたい。

教育長答弁
現時点では考えていない。

※高校再編で、県下唯の農業単独校となった三重総合高等学校久住校。さらに、独自の農業教育を展開していくために、三重総合高校の分校をやめ、久住高原農業高校となりました。地元の高校の生徒と、全国からの生徒とが一緒に学び、深い農業の入口を学びます。

絶やすな！久住のオオルリシジミ

平成30年第2回定例会 一般質問

土居議員質問
オオルリシジミとは、絶滅危惧種に指定されている希少なチョウ。九州では絶滅したと思われていたが、久住連山周辺で生息を確認。県でも保護を強化するため、罰則規定のある条例をつくるべきだ。

生活環境部長答弁
現在、生育状況等を調査している。その結果も踏まえ、条例指定するか検討する。

広瀬知事答弁
調査に時間がかかっている。直ちに結論を出す。

※県では昨年度に条例化して、オオルリシジミの保護を強化。その条例に沿って、今年も地元の保存会が、チョウ採取の取り締まりを実施。昨年の乱獲の影響から確認できたのは、5匹。そして、卵は6個だけ。そんななか、7月の記録的豪雨による土石流で、生息地である牧草地が深刻な被害に。保存会の村田良文会長は「オオルリシジミの生命力に期待するのみ」と祈ります。



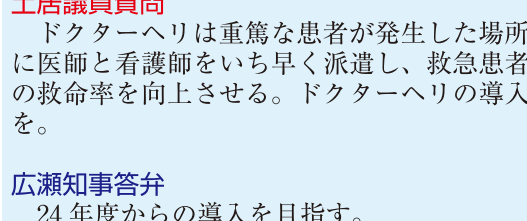
7月豪雨

救命するドクターヘリ

平成22年第2回定例会 一般質問

土居議員質問
ドクターヘリは重篤な患者が発生した場所に医師と看護師をいち早く派遣し、救急患者の救命率を向上させる。ドクターヘリの導入を。

広瀬知事答弁
24年度からの導入を目指す。



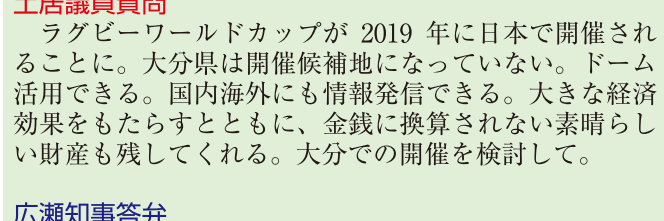
※ドクターヘリの昨年の活動は、県全体の出動要請件数448件のうち、出動は395件。竹田市内では要請が59件、出動が52件。竹田市では、電話で情報を得たら直ぐに救急救命センターに連絡を入れる覚悟同時要請ではなく、現場に行ってから連絡する現場要請を基本にしています。これからは「いのちを救う」活動をお願いします。

ラグビーW杯を活かす

平成21年第4回定例会 一般質問

土居議員質問
ラグビーワールドカップが2019年に日本で開催されることに。大分県は開催候補地になっていない。ドーム活用できる。国内海外にも情報発信できる。大きな経済効果をもたらすと同時に、金銭に換算されない素晴らしい財産も残してくれる。大分での開催を検討して。

広瀬知事答弁
大分県の情報国内外にPRし、大分県スポーツの振興につなげていくいい機会。県ラグビー協会とも相談しながら、本県での開催については検討していく。



※昨年11月に閉幕したラグビーワールドカップ2019。大分開催5試合では、17万3000人が会場で観戦。大分いこの道広場のファンゾーンも、14日間で11万5000人が来場。県内の経済波及効果は256億円(推計)。もちろん、ボランティアの活動や、国際交流事業等を通して、数字に表れない大切なものもいただきました。これらのレガシー(遺産)をどう活用していくかが問題です。多文化と繋がって、お互いに尊重し合う関係を創り出す事業を県に提案していきます。



政々動々 SAY>SAY DO>DO! 土居昌弘

農業基盤の推進と農家負担の軽減

平成25年第2回定例会 一般質問

土居議員質問
農業を営む基盤を整備する農業農村整備事業。竹田市内でも事業を実施したいという要望はあるが、農家負担がネックとなっている。農家負担の軽減を図ってもらいたい。

農林水産部長答弁
農業の持続的な発展には、農業用ダムや基幹的な農業水利施設の適正な継承が大きな課題。この課題に手当てをする農業農村整備事業だが、農家負担があり、あまり進まない。負担割合のあり方を検討してみる。

※県の決断と市町村の協力により、平成26年度から農家負担軽減が実現。民主党政権も終わり、農業基盤整備事業は進捗中。令和2年度の県の当初予算でも、自民党会派の要望予算額を獲得。土居県議は、大分県農業農村整備事業推進協議会顧問としても努力しています。



農業農村整備事業における農家負担の割合(%)

	農業水利施設 保全合理化	危険ため池 緊急整備
平成25年度まで	7.5	2
平成26年度から	5	1

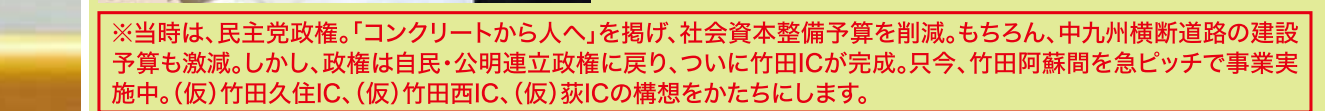
整備促進！中九州横断道路

平成21年第4回定例会 一般質問

土居議員質問
先日、民主党政府が示した大野竹田道路の予算は5億から6億円程度。政権交代前の予算は約40億円。完成は、一体いつになるのか。見通しも含め、見解は。

土木建築部長答弁
大変厳しい状況だ。国に対して、予算全体の増額を強く要望している。

※当時は、民主党政権。「コンクリートから人へ」を掲げ、社会資本整備予算を削減。もちろん、中九州横断道路の建設予算も減額。しかし、政権は自民・公明連立政権に戻り、ついに竹田ICが完成。只今、竹田阿蘇間を急ピッチで事業実施中。(仮)竹田久住IC、(仮)竹田西IC、(仮)狭ICの構想をかたちにします。



30年越しの悲願 飛田川工区

県道白丹竹田線の改良は、私が県議になった時にいただいた懸案事項。例えば、飛田川工区。カーブミラーがついた急な曲がり道約50mが、対向車との行き来ができない狭い道。昔からの課題で、約30年前に改良計画を立てましたが、用地交渉が進みませんでした。その結果、この30年間、市民の切実な願いは実現しないまま。交通事故を起こす危険性は高く、1日も早い工事の完成が待ち望まれています。

※このままではダメだと考え、竹田土木事務所とともに打開策を練りました。その結果、計画を変更することに。地元の方々のご理解を賜り、竹田市の協力も得て、計画を変更。そして、事業実施。令和2年度末までには、車両が通れるように工事を進めています。



国文祭の経験が生んだもの

平成27年第2回定例会 一般質問

土居議員質問
今年の国民文化祭は鹿児島。来年は愛知、再来年は奈良。その次が決まっています。平成30年に大分で開催したい。

広瀬知事答弁
具体的に検討していきたい。

※盛大に開催された国民文化祭・障害者芸術文化祭。県は翌年、おおいだ障がい者芸術文化支援センターを設立。障がい者が広く芸術文化を楽しめるように活動しています。10月21日～11月1日まで「おおいだ障がい者アート展」を開催予定。楽しみます。

現在、大分市観術館で開催中の「CIAO!2020」。障がいのある皆さんの作品も展示されています。出品者の一人、自閉症のあるひなちゃん(19)。これからも作品をつくり続けます。



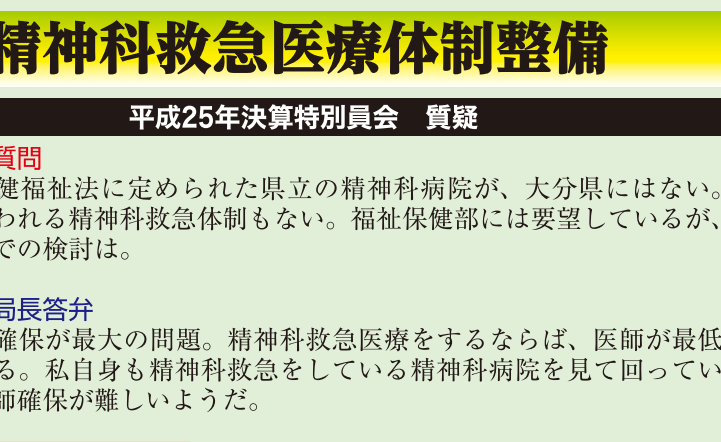
精神科救急医療体制整備

平成25年決算特別委員会 質疑

土居委員質問
精神保健福祉法に定められた県立の精神科病院が、大分県にはない。そこで行われる精神科救急体制もない。福祉保健部には要望しているが、県病内部での検討は。

県立病院局長答弁
医師の確保が最大の課題。精神科救急医療をするならば、医師が最低7名はいる。私自身も精神科救急をしている精神科病院を見て回っているが、医師確保が難しいようだ。

※ついに令和2年10月1日、大分県立病院に精神医療センターが開設します。約22億円かけて、平成30年から始まった工事も終わり、開設に向けて準備中。保護室8床、HCU2床、身体合併症個室6床、個室8床、多床室12床の、合計36床。地域の民間精神科病院等と連携しながら運営。県民の安心を向上させます。



玉来ダム治水効果発現へ

平成21年第4回定例会 一般質問

土居議員質問
玉来ダムは基本設計が終わり、これから用地買収というところで国(民主党政権)から止められた。ダム事業の凍結というのだ。今後の玉来ダム整備の見直しは。

土木建築部長答弁
先行きは不透明。円滑に事業進捗が図れるよう国に強く要望する。

※竹田市民の安心安全を守るため、建設が進む玉来ダム。令和2年度末には一定の治水効果をあげられるよう、工事関係者は奮闘しています。ところが、7月7日の記録的豪雨。建設現場の上流の飯締切堤を越えて流れた玉来川の濁流。しかしながら、7月9日に訪れた時には、現場は随分と片付いていて、ダメージも少なそうです。来年度の出水期まで、工事はハイペースで進みます。



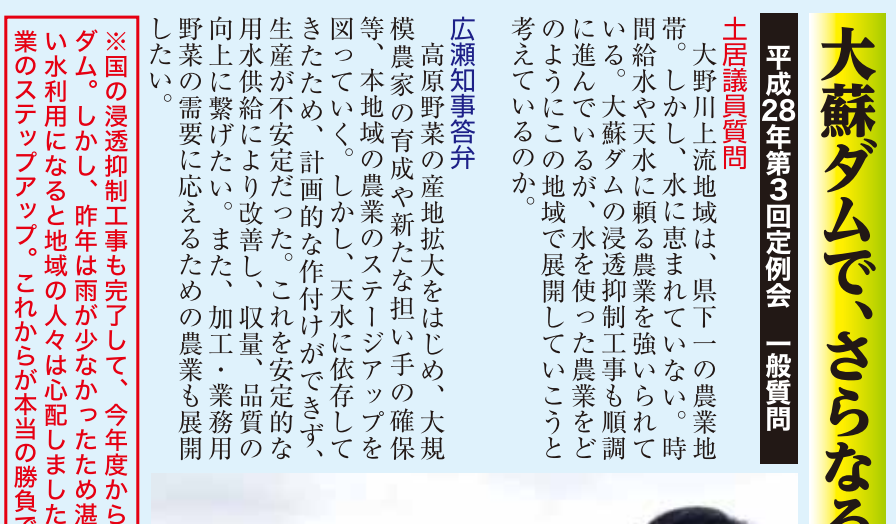
大蘇ダムで、さらなる農業振興

平成28年第3回定例会 一般質問

土居議員質問
大野川上流地域は、県下一の農業地帯。しかし、水に恵まれていない。時間給水や天水に頼る農業を強いられる。大蘇ダムの浸透抑制工事も順調に進んでいるが、水を使った農業をどのようにこの地域で展開していくかと考えているのか。

広瀬知事答弁
高原野答の産地拡大をはじめ、規模農家の育成や新たな担い手の確保等、本地域の農業のステータアップを図っていく。しかし、天水に依存してきたため、計画的な作付けができず、生産が不安定だった。これを安定的な用水供給により改善し、加量、品質向上に繋げたい。また、加工、業務用野菜の需要に応えるための農業も展開したい。

※国の浸透抑制工事も完了して、今年度から本格的な給水が始まった大蘇ダム。しかし、昨年は雨が少なかったため浸透水が進まず、今年の春は厳しい水利用になると地域の人々は心配しました。安定的な用水供給による農業のステータアップ。これからは本気の勝負です。



令和2年度竹田土木事務所 事業別当初予算

国道442号(久住拡幅Ⅱ)道路改良事業	27,500	玉来川(玉来)総合流域防災事業	12,500
県道白丹竹田線(下志土知)道路改良事業	15,000	芹川(長湯)総合流域防災事業	1,500
(飛田川)道路改良事業	5,000	瀬の口地区(次倉)地すべり対策事業	2,000
橋梁補修事業	12,000	殿町地区(竹田)急傾斜地崩壊対策事業	3,000
県道神原玉来線(中尾)道路改良事業	3,100	田原地区(飛田川)急傾斜地崩壊対策事業	3,000
県道庄内久住線(塩手)道路改良事業	15,000	尾園地区(平田)急傾斜地崩壊対策事業	2,500
(仏原)交通安全事業	12,000	次倉中央②地区(次倉)急傾斜地崩壊対策事業	1,900
(都野)交通安全事業	2,000	下木地区(会々)緊急改築<急傾斜>事業	1,000
県道小川穴井迫線 他 災害防除事業	8,700	都市計画道路 玉来吉田線(玉来)街路事業	3,500
濁淵川(植木)総合流域防災事業	3,000	※竹田土木事務所所管事業の一部です。(単位:万円)	

変えるべき教育

文部科学省は、「新型コロナウイルス対策として、児童生徒に家庭教育を課す際や、学習状況の把握を行う際には、ICTを最大限活用して遠隔で対応することが極めて効果的」とし、GIGAスクール構想を前倒して、令和2年度中に、すべての公立小中高等学校に「1人1台端末」を整備することとしました。

コロナによる臨時休校もあったことから、土居県議が会長の教育問題調査会は、ICTの勉強会を県議会自民党内で急遽開催。(株)Do itの土井社長から「GIGAスクール構想と未来の教室」と題しての講演。

県の教育現場においては、ICTの活用が十分ではない。特に、教育委員会で「ビジョン構築」がなされていないことが問題だ。これでは、機器を導入することがゴールになる。教育とは「履修」ではなく、「習得」すること。ICTは子供達の可能性を引き出す自己表現のツール。大いに活用してくださいと、熱い思いを語ってくれました。時代は変わります。教育も変えなくてはいけません。熊本市の市立小中



6月16日、日出町の(株)Do itの土井敏裕社長を県議会自民党会議室にお招きして、大分県におけるICTを活用した教育の可能性を探りました。(左端は、衛藤博昭議員)



コロナで臨時休校を余儀なくされた学校。その間の学習体制をどうするのか問題に。4月18日に竹田高校を訪れ、西山校長先生と協議。手探り状態から確かな一歩を踏み出します。



英語は、あくまでも道具。問題は、中身。自ら考え、発信する力を養うことが大事だと、東京の恵泉女学園。教育問題調査会で、英語教育を調査します。

学校は、夏休みを短縮したのは6日間だけ。コロナによる休校中に、全市立学校で双方向型のオンライン授業を実施してきたからです。教育の様々な分野を研究する調査会。その結果を持って、執行部に提案していきます。

人生を豊かに 大分県議会が「人生会議」普及啓発推進条例を制定



1月26日に開催された「最期まで自分らしく生きるために」講演会。県や県医師会などをつくる県地域保健協議会が県医師会館で開きました。「後悔のない別れを目指して、今私達ができること」。講師で、看護師で僧侶でもある玉置妙愛さんに、県医師会理事 井上雅公先生、県看護協会会長 大戸朋子看護師ら役員とお礼。いのち満たされる大分県づくりに邁進します。



「討論!これからの地域支援と作業療法」と題して、2月14日に開催された大分県作業療法士連盟研修会。地域包括ケアシステムの終点でもある、新たな起点にもなる死。死があるからこそ、生があることをどう理解するか。大きな問題です。



県議会福祉保健委員会で、条例案を説明

予定より3ヶ月遅れて、大分県に「豊かな人生を送るために「人生会議」の普及啓発を推進する条例」を制定しました。「人生会議」とは、本人が希望する医療やケア等を受けるために大切にしていることや望んでいること、どこでどのような医療やケアを望むか等について、自分自身で前もって考え、家族や親しい友人、医療・介護従事者等、周囲の信頼する人達と何度も話し合い、しっかりと共有する取り組みです。また、「人生会議」は強制されるもので



「健康寿命日本一」を掲げる大分県。しかし、「生きていても、何もいいことがない」という声も耳にします。令和2年第2回定例会、6月24日。「僕が死を考えるのは、死ぬためではない。より良く生きるためだ」というマルローの言葉を引用して、人生の質を高めるために人生会議を広めようと、本会議で議員提出条例案「豊かな人生を送るために「人生会議」の普及啓発を推進する条例」を説明。



「人生会議」条例策定で、大変お世話になった方々。(前列右から)福岡市の二ノ坂保喜先生、日田市の宮崎秀人先生、大分市の山岡憲夫先生、佐伯市の山内勇人先生はじめ、多くの医師、看護師、理学療法士、作業療法士、社会福祉士、介護福祉士等の医療福祉従事者に加え、大分県議会議員の協力があって、県条例制定まで漕ぎ着けました。皆さん、ありがとうございます。

はありませんし、必ず何かを決めなければならぬものでもありません。本人が「どのように生きたいか」ということを、本人の人生観や価値観を中心に据えて話し合うプロセスであり、家族や信頼できる人達と語り合う日々の会話の延長線上にあるものです。この世は、無常。「今」は、永遠ではありません。大事な「今」に気づき、大切に過ごすためにも、自分は「どう生きたいのか」を語り合うことが大事です。